

公的資金補償金免除繰上償還に係る公営企業経営健全化計画

基本的事項

- 1 事業の概要 特別会計名：美祢市公共下水道事業特別会計、H20から美祢市公共下水道事業会計

| | | | |
|---------|----------------|----------------|----------|
| 事業名 | 公共下水道事業（下水道事業） | | |
| 事業開始年月日 | 平成元年4月1日 | 地方公営企業法の適用・非適用 | レ適用 レ非適用 |
| 団体名 | 美祢市 | 職員数（H19.4.1現在） | 6人 |
| 構成団体名 | | | |

注1 事業を実施する団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）の場合は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記載し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記すること。

- 2 「職員数」欄には、当該事業に従事する全職員数を記載すること。

2 財政指標等

| | | | |
|------------|-------------|-----------------|---------------|
| 資本費 | 489（平成17年度） | 公営企業債現在高（百万円） | 5,861（平成18年度） |
| 累積欠損金（百万円） | 0 | 利益剰余金又は積立金（百万円） | 0 |
| 不良債務（百万円） | 0 | 財政力指数 | 0.350（平成18年度） |
| 資金不足比率（％） | 0 | 実質公債費比率（％） | 21.3（平成18年度） |
| | | 経常収支比率（％） | 93.1（平成17年度） |

注 平成17年度（又は平成18年度）の公営企業決算状況調査、地方財政状況調査等の報告数値を記入すること。
 なお、財政力指数、実質公債費比率及び経常収支比率は、当該事業の経営主体である地方公共団体の数値を記載し、当該事業が一部事務組合等により経営されている場合は、その構成団体の各数値を加重平均したものを記載すること。（ただし、旧資金運用部資金及び旧簡易生命保険資金について対象としない財政力1.0以上の団体の区分については構成団体の中で最も低い財政力指数を記載すること。）

3 合併市町村等における公営企業の統合等の内容

| |
|--|
| レ 新法による合併市町村、合併予定市町村における公営企業の統合等の内容 旧法による合併市町村における公営企業の統合等の内容 該当なし |
| 〔合併期日：平成20年3月21日 合併前市町村：美祢市・秋芳町・美東町〕 公共下水道事業は、合併前の美祢市だけの事業であり、合併後も現行どおりである。また、平成20年4月1日から特別会計から企業会計に移行する。 |

注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（平成16年法律第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。

- 2 「旧法による合併市町村」とは、市町村の合併の特例に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第2項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。

- 3 にレを付けた上で内容を記載すること。

4 公営企業経営健全化計画の基本方針等

| 区分 | 内容 |
|----------|--|
| 計画名 | 美祢市公共下水道事業公営企業経営健全化計画 |
| 計画期間 | 平成19年度～平成23年度 |
| 計画策定責任者 | 美祢市長 村田 弘司 |
| 既存計画との関係 | 公営企業経営健全化計画（平成18年度～平成27年度） |
| 公表の方法等 | 事務所において縦覧 |
| 基本方針 | 建設事業をより効率的に進め、早期に完成させることで建設費の削減を図る。特に、家屋集中地区の枝線整備を早急に実施し、普及率の増加に努める。また、処理区域内の水洗化を促進する。 |

注 計画期間については、原則として平成19年度から23年度までの5か年とすること。

基本的事項（つづき）

5 繰上償還希望額等

(単位：百万円)

| 区 分 | | 年利5%以上6%未満 | 年利6%以上7%未満 | 年利7%以上 | 合 計 |
|------------|---------|------------|------------|--------|-----|
| 旧資金運用部資金 | 繰上償還希望額 | 125 | 376 | 171 | 671 |
| | 補償金免除額 | 20 | 78 | 34 | 132 |
| 旧簡易生命保険資金 | 繰上償還希望額 | | | | |
| 公営企業金融公庫資金 | 繰上償還希望額 | 114 | 130 | 33 | 277 |

注 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所に予め相談・調整の上、確認した補償金免除(見込)額を記入すること。

6 平成19年度末における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

(単位：千円)

| 事業債名 | | 年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高) | 年利6%以上7%未満 (平成20年度末残高) | 年利7%以上 (平成19年度末残高) | 合 計 |
|--|---------|---------------------------|---------------------------|-----------------------|---------|
| 公 営 企 業 債 | 下水道事業債 | 124,848 | 375,947 | 170,607 | 671,402 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 合 計 (A) | 124,848 | 375,947 | 170,607 | 671,402 |
| 一 般 上 記 の う ち (再掲) 一 般 会 計 繰 入 金 | 一般会計繰入金 | 124,848 | 375,947 | 170,607 | 671,402 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 合 計 (B) | 124,848 | 375,947 | 170,607 | 671,402 |
| 公営企業で負担するもの (A)-(B) | | 0 | 0 | 0 | 0 |

【旧簡易生命保険資金】

(単位：千円)

| 事業債名 | | 年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高) | 年利6%以上7%未満 (平成21年度末残高) | 年利7%以上 (平成20年度9月期残高) | 合 計 |
|--|---------|---------------------------|---------------------------|-------------------------|-----|
| 公 営 企 業 債 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 合 計 (A) | | | | |
| 一 般 上 記 の う ち (再掲) 一 般 会 計 繰 入 金 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 合 計 (B) | | | | |
| 公営企業で負担するもの (A)-(B) | | | | | |

【公営企業金融公庫資金】

(単位：千円)

| 事業債名 | | 年利5%以上6%未満 (平成20年度9月期残高) | 年利6%以上7%未満 (平成20年度9月期残高) | 年利7%以上 (平成19年度末残高) | 合 計 |
|--|---------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------|---------|
| 公 営 企 業 債 | 下水道事業債 | 114,225 | 129,971 | 32,891 | 277,087 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 合 計 (A) | 114,225 | 129,971 | 32,891 | 277,087 |
| 一 般 上 記 の う ち (再掲) 一 般 会 計 繰 入 金 | 一般会計繰入金 | 114,225 | 129,971 | 32,891 | 277,087 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 合 計 (B) | 114,225 | 129,971 | 32,891 | 277,087 |
| 公営企業で負担するもの (A)-(B) | | 0 | 0 | 0 | 0 |

注1 地方債計画の区分ごとに記入すること。
2 必要に応じて行を追加して記入すること。

財務状況の分析

| 区 分 | 内 容 | | | | |
|---|--|-------------------|--|---|--|
| 財務上の特徴 | <p>平成17年度に使用料の適正化を図るため、使用料を改定（平成18年4月から実施）し、平成17年度公営企業決算状況調査の結果、使用料単価125円であったが、平成18年度決算見込で154円となり、全国平均である150円を上回る予定である。しかしながら、美祢市は処理区域内の人口密度が16人/haと低いため、処理区域内人口一人当たりの資本費が平成17年度で類似団体（Dd2）平均35,393円に対して、49,540円と高価となっている。また、公営企業債の元利償還金は、一般会計からの繰入金に依存している。</p> | | | | |
| 経営課題 | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="470 611 651 660">課 題</td> <td data-bbox="651 611 1394 660">資本投下の抑制</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="470 660 1394 840"> <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、処理人口1人当たりの資本費が類似団体（Dd2）平均35,393円/人に対して、美祢市は、49,540円/人と平均を上回っているため、公共下水道施設の重要な施設である管渠の工事において、近年の管路の維持管理技術の発展に対応させ、工事費の軽減に努める。</p> </td> </tr> </table> | 課 題 | 資本投下の抑制 | <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、処理人口1人当たりの資本費が類似団体（Dd2）平均35,393円/人に対して、美祢市は、49,540円/人と平均を上回っているため、公共下水道施設の重要な施設である管渠の工事において、近年の管路の維持管理技術の発展に対応させ、工事費の軽減に努める。</p> | |
| | 課 題 | 資本投下の抑制 | | | |
| | <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、処理人口1人当たりの資本費が類似団体（Dd2）平均35,393円/人に対して、美祢市は、49,540円/人と平均を上回っているため、公共下水道施設の重要な施設である管渠の工事において、近年の管路の維持管理技術の発展に対応させ、工事費の軽減に努める。</p> | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="470 840 651 889">課 題</td> <td data-bbox="651 840 1394 889">水洗化促進による料金収入の増収対策</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="470 889 1394 1034"> <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、水洗化率が類似団体（Dd2）平均82.4%に対して、美祢市は、88.2%と平均を上回っているが、更なる水洗化促進により、料金収入の増収を図るとともに、水洗化率90%以上を目標に努力する。</p> </td> </tr> </table> | 課 題 | 水洗化促進による料金収入の増収対策 | <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、水洗化率が類似団体（Dd2）平均82.4%に対して、美祢市は、88.2%と平均を上回っているが、更なる水洗化促進により、料金収入の増収を図るとともに、水洗化率90%以上を目標に努力する。</p> | |
| | 課 題 | 水洗化促進による料金収入の増収対策 | | | |
| <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、水洗化率が類似団体（Dd2）平均82.4%に対して、美祢市は、88.2%と平均を上回っているが、更なる水洗化促進により、料金収入の増収を図るとともに、水洗化率90%以上を目標に努力する。</p> | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="470 1034 651 1084">課 題</td> <td data-bbox="651 1034 1394 1084">サービス供給コストの節減合理化</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="470 1084 1394 1254"> <p>平成18年度から口座振替領収書をハガキから、ハンディーターミナルの活用により、水道使用量検針時に領収書を発行することにより、経費節減に努めている。また、自主納付の使用者には、納付書を送付していることから、今後、自主納付者に対して口座振替を依頼し、更なる経費削減に努める。</p> </td> </tr> </table> | 課 題 | サービス供給コストの節減合理化 | <p>平成18年度から口座振替領収書をハガキから、ハンディーターミナルの活用により、水道使用量検針時に領収書を発行することにより、経費節減に努めている。また、自主納付の使用者には、納付書を送付していることから、今後、自主納付者に対して口座振替を依頼し、更なる経費削減に努める。</p> | | |
| 課 題 | サービス供給コストの節減合理化 | | | | |
| <p>平成18年度から口座振替領収書をハガキから、ハンディーターミナルの活用により、水道使用量検針時に領収書を発行することにより、経費節減に努めている。また、自主納付の使用者には、納付書を送付していることから、今後、自主納付者に対して口座振替を依頼し、更なる経費削減に努める。</p> | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="470 1254 651 1303">課 題</td> <td data-bbox="651 1254 1394 1303">定員管理の適正合理化</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="470 1303 1394 1438"> <p>美祢市行政改革実施計画（集中改革プラン）（平成18年2月23日策定）によれば、平成22年度で8名となっているが、平成19年度では6名で業務を行っている。今後は、人事の交流により、更なる人件費の削減に努める。</p> </td> </tr> </table> | 課 題 | 定員管理の適正合理化 | <p>美祢市行政改革実施計画（集中改革プラン）（平成18年2月23日策定）によれば、平成22年度で8名となっているが、平成19年度では6名で業務を行っている。今後は、人事の交流により、更なる人件費の削減に努める。</p> | | |
| 課 題 | 定員管理の適正合理化 | | | | |
| <p>美祢市行政改革実施計画（集中改革プラン）（平成18年2月23日策定）によれば、平成22年度で8名となっているが、平成19年度では6名で業務を行っている。今後は、人事の交流により、更なる人件費の削減に努める。</p> | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="470 1438 651 1487">課 題</td> <td data-bbox="651 1438 1394 1487">維持管理費コストの節減合理化</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="470 1487 1394 1630"> <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、処理人口1人当たりの維持管理費が類似団体（Dd2）10,095円に対して、美祢市は、12,107円と高いため、処理場維持管理において、光熱費の経費削減に努める。</p> </td> </tr> </table> | 課 題 | 維持管理費コストの節減合理化 | <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、処理人口1人当たりの維持管理費が類似団体（Dd2）10,095円に対して、美祢市は、12,107円と高いため、処理場維持管理において、光熱費の経費削減に努める。</p> | | |
| 課 題 | 維持管理費コストの節減合理化 | | | | |
| <p>平成17年度公営企業決算状況調査の結果、処理人口1人当たりの維持管理費が類似団体（Dd2）10,095円に対して、美祢市は、12,107円と高いため、処理場維持管理において、光熱費の経費削減に努める。</p> | | | | | |
| 留意事項 | | | | | |

注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記載すること。また、経営指標等について経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。

2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、維持管理費等サービス供給コストの節減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、団体が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記載する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を記載すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。

(単位:百万円,%)

| 区 分 | | 年 度 | | | | | | | | | |
|---------------------|----------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | | 平成14年度 (計画前5年度) (決算) | 平成15年度 (計画前4年度) (決算) | 平成16年度 (計画前3年度) (決算) | 平成17年度 (計画前々年度) (決算) | 平成18年度 (計画前年度) (決算見込) | 平成19年度 (計画初年度) | 平成20年度 (計画第2年度) | 平成21年度 (計画第3年度) | 平成22年度 (計画第4年度) | 平成23年度 (計画第5年度) |
| 資 本 的 収 入 | 1. 企 業 債 | | | | | 164,200 | 259,900 | 264,900 | 136,800 | 123,300 | 83,600 |
| | 2. 他 会 計 出 資 金 | | | | | | | | | | |
| | 3. 他 会 計 補 助 金 | | | | | 370,285 | 407,480 | 525,168 | 450,339 | 447,792 | 425,396 |
| | 4. 他 会 計 負 担 金 | | | | | | | | | | |
| | 5. 他 会 計 借 入 金 | | | | | | | | | | |
| | 6. 国 (都 道 府 県) 補 助 金 | | | | | 132,940 | 159,600 | 169,710 | 33,500 | 21,250 | |
| | 7. 固 定 資 産 売 却 代 金 | | | | | | | | | | |
| | 8. 工 事 負 担 金 | | | | | 13,598 | 13,999 | 15,000 | 16,000 | 15,000 | 15,000 |
| | 9. そ の 他 | | | | | 2,082 | | | | | |
| | | 計 (A) | | | | | 683,105 | 840,979 | 974,778 | 636,639 | 607,342 |
| | (A)のうち翌年度へ繰り越される支出の 財源充当額 (B) | | | | | | | | | | |
| | 純 計 (A)-(B) (C) | | | | | 683,105 | 840,979 | 974,778 | 636,639 | 607,342 | 523,996 |
| 支 出 | 1. 建 設 改 良 費 | | | | | 350,197 | 469,334 | 623,856 | 253,123 | 206,710 | 129,355 |
| | うち 職 員 給 与 費 | | | | | 42,200 | 37,877 | 37,877 | 37,877 | 36,175 | 36,175 |
| | 2. 企 業 債 償 還 金 | | | | | 332,908 | 371,645 | 350,922 | 383,516 | 400,632 | 394,641 |
| | 3. 他 会 計 長 期 借 入 返 還 金 | | | | | | | | | | |
| | 4. 他 会 計 へ の 支 出 金 | | | | | | | | | | |
| 5. そ の 他 | | | | | | | | | | | |
| | 計 (D) | | | | | 683,105 | 840,979 | 974,778 | 636,639 | 607,342 | 523,996 |
| | 資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E) | | | | | | | | | | |
| 補 て ん 財 源 | 1. 損 益 勘 定 留 保 資 金 | | | | | | | | | | |
| | 2. 利 益 剰 余 金 処 分 額 | | | | | | | | | | |
| | 3. 繰 越 工 事 資 金 | | | | | | | | | | |
| | 4. そ の 他 | | | | | | | | | | |
| | 計 (F) | | | | | | | | | | |
| | 補てん財源不足額 (E)-(F) | | | | | | | | | | |
| 積 立 金 現 在 高 | | | | | | | | 1,311 | 5,092 | 9,114 | 13,136 |
| 企 業 債 現 在 高 | | | | | | 5,860,546 | 5,748,802 | 5,623,260 | 5,353,064 | 5,068,435 | 4,723,003 |
| うち建設改良費・準建設改良費に係るもの | | | | | | 5,860,546 | 5,748,802 | 5,623,260 | 5,353,064 | 5,068,435 | 4,723,003 |
| うちその他に係るもの | | | | | | | | | | | |

(2) 他会計繰入金

(単位:百万円)

| 区 分 | | 年 度 | | | | | | | | | |
|-------------|--------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | | 平成14年度 (計画前5年度) (決算) | 平成15年度 (計画前4年度) (決算) | 平成16年度 (計画前3年度) (決算) | 平成17年度 (計画前々年度) (決算) | 平成18年度 (計画前年度) (決算見込) | 平成19年度 (計画初年度) | 平成20年度 (計画第2年度) | 平成21年度 (計画第3年度) | 平成22年度 (計画第4年度) | 平成23年度 (計画第5年度) |
| 収 益 的 収 支 分 | | | | | | 174,485 | 195,110 | 302,612 | 278,259 | 266,425 | 257,764 |
| | うち 基 準 内 繰 入 金 | | | | | 121,636 | 112,216 | 95,936 | 82,424 | 76,014 | 71,372 |
| | うち 基 準 外 繰 入 金 | | | | | 52,849 | 82,894 | 206,676 | 195,835 | 190,411 | 186,392 |
| | うち料金収入に計上すべき繰入等 うち赤字補てん的なもの | | | | | 52,849 | 82,894 | 206,676 | 195,835 | 190,411 | 186,392 |
| 資 本 的 収 支 分 | | | | | | 370,285 | 407,480 | 525,168 | 450,339 | 447,792 | 425,396 |
| | うち 基 準 内 繰 入 金 | | | | | 44,319 | 34,369 | 29,192 | 24,896 | 22,766 | 17,979 |
| | うち 基 準 外 繰 入 金 | | | | | 325,966 | 373,111 | 495,976 | 425,443 | 425,026 | 407,417 |
| | うち赤字補てん的なもの | | | | | 325,966 | 373,111 | 495,976 | 425,443 | 425,026 | 407,417 |

今後の経営状況の見通し（法非適用企業）

(1) 収益的収支、資本的収支

(単位:百万円,%)

| 区 分 | | 年 度 | 平成14年度 (計画前5年度) (決算) | 平成15年度 (計画前4年度) (決算) | 平成16年度 (計画前3年度) (決算) | 平成17年度 (計画前々年度) (決算) | 平成18年度 (計画前年度) (決算見込) | 平成19年度 (計画初年度) | 平成20年度 (計画第2年度) | 平成21年度 (計画第3年度) | 平成22年度 (計画第4年度) | 平成23年度 (計画第5年度) |
|-----------------------|-----------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | | | | | | | | | | | | |
| 収益的 収 入 | 1 総 収 益 (A) | 1 総 収 益 (A) | 345,234 | 336,562 | 330,567 | 345,781 | 327,742 | 357,877 | 288,096 | 261,623 | 249,729 | 241,255 |
| | | (1) 営 業 収 益 (B) | 122,412 | 122,855 | 126,133 | 126,636 | 153,232 | 162,717 | 164,278 | 165,855 | 167,448 | 169,057 |
| | | ア 料 金 収 入 | 115,825 | 116,268 | 119,546 | 120,049 | 146,645 | 156,130 | 157,691 | 159,268 | 160,861 | 162,470 |
| | | イ 受 託 工 事 収 益 (C) | | | | | | | | | | |
| | | ウ そ の 他 | (6,587) | (6,587) | (6,587) | (6,587) | (6,587) | (6,587) | (6,587) | (6,587) | (6,587) | (6,587) |
| | | (2) 営 業 外 収 益 | 222,822 | 213,707 | 204,434 | 219,145 | 174,510 | 195,160 | 123,818 | 95,768 | 82,281 | 72,198 |
| | | ア 他 会 計 繰 入 金 | 208,399 | 199,601 | 203,133 | 218,865 | 174,485 | 195,110 | 123,768 | 95,718 | 82,231 | 72,148 |
| | | イ そ の 他 | 14,423 | 14,106 | 1,301 | 280 | 25 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| | 2 総 費 用 (D) | 2 総 費 用 (D) | 345,234 | 336,562 | 330,567 | 345,781 | 327,742 | 357,877 | 288,096 | 261,623 | 249,729 | 241,255 |
| | | (1) 営 業 費 用 | 93,683 | 93,202 | 92,724 | 118,093 | 110,584 | 143,394 | 105,217 | 105,217 | 104,976 | 104,976 |
| | | ア 職 員 給 与 費 うち退職手当 | 8,880 | 5,265 | 5,646 | 6,405 | 5,613 | 5,363 | 5,363 | 5,363 | 5,122 | 5,122 |
| | | イ そ の 他 | 84,803 | 87,937 | 87,078 | 111,688 | 104,971 | 138,031 | 99,854 | 99,854 | 99,854 | 99,854 |
| | | (2) 営 業 外 費 用 | 251,551 | 243,360 | 237,843 | 227,688 | 217,158 | 214,483 | 182,879 | 156,406 | 144,753 | 136,279 |
| | | ア 支 払 利 息 上段:雨水 下段:汚水 | 4,251 | 4,000 | 3,761 | 3,619 | 3,487 | 3,348 | 3,203 | 3,052 | 2,894 | 2,729 |
| | | うち一時借入金利息 | | | | | | | | | | |
| イ そ の 他 | | | | | | | | | | | | |
| 3 収 支 差 引 (A)-(D) (E) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 資本的 収 支 | 1 資 本 的 収 入 (F) | 1 資 本 的 収 入 (F) | 1,257,103 | 768,973 | 672,439 | 649,503 | 683,105 | 840,979 | 974,778 | 636,639 | 607,342 | 523,996 |
| | | (1) 地 方 債 | 574,380 | 180,500 | 119,900 | 102,500 | 164,200 | 259,900 | 264,900 | 136,800 | 123,300 | 83,600 |
| | | (2) 他 会 計 補 助 金 | 349,792 | 358,383 | 362,818 | 390,142 | 370,285 | 407,480 | 525,168 | 450,339 | 447,792 | 425,396 |
| | | (3) 他 会 計 借 入 金 | | | | | | | | | | |
| | | (4) 固 定 資 産 売 却 代 金 | | | | | | | | | | |
| | | (5) 国 (都 道 府 県) 補 助 金 | 311,176 | 205,250 | 170,830 | 135,680 | 132,940 | 159,600 | 169,710 | 33,500 | 21,250 | |
| | | (6) 工 事 負 担 金 | 21,288 | 24,840 | 17,452 | 19,178 | 13,598 | 13,999 | 15,000 | 16,000 | 15,000 | 15,000 |
| | | (7) そ の 他 | 467 | | 1,439 | 2,003 | 2,082 | 0 | | | | |
| | 2 資 本 的 支 出 (G) | 2 資 本 的 支 出 (G) | 1,263,386 | 769,782 | 675,350 | 649,503 | 683,105 | 840,979 | 974,778 | 636,639 | 607,342 | 523,996 |
| | | (1) 建 設 改 良 費 うち職員給与費 | 973,448 | 483,348 | 375,893 | 339,320 | 350,197 | 469,334 | 623,856 | 253,123 | 206,710 | 129,355 |
| | | (2) 地 方 債 償 還 金 (H) | 289,938 | 286,434 | 299,457 | 310,183 | 332,908 | 371,645 | 350,922 | 383,516 | 400,632 | 394,641 |
| | | (3) 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金 | | | | | | | | | | |
| | | (4) 他 会 計 へ の 繰 出 金 | | | | | | | | | | |
| | | (5) そ の 他 | | | | | | | | | | |
| | 3 収 支 差 引 (F)-(G) (I) | | 6,283 | 809 | 2,911 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(単位:百万円,%)

| 区 分 | 年 度 | | | | | | | | | | |
|--|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--|
| | 平成14年度 (計画前5年度) (決算) | 平成15年度 (計画前4年度) (決算) | 平成16年度 (計画前3年度) (決算) | 平成17年度 (計画前々年度) (決算) | 平成18年度 (計画前年度) (決算見込) | 平成19年度 (計画初年度) | 平成20年度 (計画第2年度) | 平成21年度 (計画第3年度) | 平成22年度 (計画第4年度) | 平成23年度 (計画第5年度) | |
| 収 支 再 差 引 (E)+(I) (J) | 6,283 | 809 | 2,911 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 積 立 金 (K) | | | | | | | | | | | |
| 前 年 度 か ら の 繰 越 金 (L) | 10,003 | 3,720 | | | | | | | | | |
| 前 年 度 繰 上 充 用 金 (M) | | | | | | | | | | | |
| 形 式 収 支 (J)-(K)+(L)-(M) (N) | 3,720 | 2,911 | 2,911 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 翌 年 度 へ 繰 り 越 す べ き 財 源 (O) | 3,720 | 2,911 | 2,911 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 実 質 収 支 (N)-(O) | 黒 字 (P) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 赤 字 (Q) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 赤 字 比 率 ($\frac{(Q)}{(B)-(C)} \times 100$) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 収 益 的 収 支 比 率 ($\frac{(A)}{(D)+(H)} \times 100$) | 54.4 | 54.0 | 52.5 | 52.7 | 49.6 | 49.1 | 45.1 | 40.6 | 38.4 | 37.9 | |
| 地方財政法施行令第20条第1項により算定した 資 金 の 不 足 額 (R) | | | | | | | | | | | |
| 営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益 (B)-(C) (S) | 122,412 | 122,855 | 126,133 | 126,636 | 153,232 | 162,717 | 164,278 | 165,855 | 167,448 | 169,057 | |
| 資 金 不 足 比 率 ((R)/(S)×100) | | | | | | | | | | | |
| 積 立 金 現 在 高 | | | | | | | | | | | |
| 企 業 債 現 在 高 | 6,522,428 | 6,416,494 | 6,236,937 | 6,029,254 | 5,860,546 | 5,748,802 | 5,623,260 | 5,353,064 | 5,068,435 | 4,723,003 | |
| うち建設改良費・準建設改良費に係るもの | 6,522,428 | 6,416,494 | 6,236,937 | 6,029,254 | 5,860,546 | 5,748,802 | 5,623,260 | 5,353,064 | 5,068,435 | 4,723,003 | |
| うちその他に係るもの | | | | | | | | | | | |

(2) 他会計繰入金

(単位:百万円)

| 区 分 | 年 度 | | | | | | | | | | |
|-----------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--|
| | 平成14年度 (計画前5年度) (決算) | 平成15年度 (計画前4年度) (決算) | 平成16年度 (計画前3年度) (決算) | 平成17年度 (計画前々年度) (決算) | 平成18年度 (計画前年度) (決算見込) | 平成19年度 (計画初年度) | 平成20年度 (計画第2年度) | 平成21年度 (計画第3年度) | 平成22年度 (計画第4年度) | 平成23年度 (計画第5年度) | |
| 収 益 的 収 支 分 | 208,399 | 199,601 | 203,133 | 218,865 | 174,485 | 195,110 | 123,768 | 95,718 | 82,231 | 72,148 | |
| うち基準内繰入金 | 121,168 | 140,616 | 19,398 | 18,046 | 121,636 | 112,216 | 95,936 | 82,424 | 76,014 | 71,372 | |
| うち基準外繰入金 | 87,231 | 58,985 | 183,735 | 200,819 | 52,849 | 82,894 | 27,833 | 13,295 | 6,218 | 776 | |
| うち料金収入に計上すべき繰入等 | | | | | | | | | | | |
| うち赤字補てん的なもの | 87,231 | 58,985 | 183,735 | 200,819 | 52,849 | 82,894 | 27,833 | 13,295 | 6,218 | 776 | |
| 資 本 的 収 支 分 | 349,792 | 358,383 | 362,818 | 390,142 | 370,285 | 407,480 | 525,168 | 450,339 | 447,792 | 425,396 | |
| うち基準内繰入金 | 62,558 | 69,896 | 59,594 | 48,204 | 44,319 | 34,369 | 29,192 | 24,896 | 22,766 | 17,979 | |
| うち基準外繰入金 | 287,234 | 288,487 | 303,224 | 341,938 | 325,966 | 373,111 | 495,976 | 425,443 | 425,026 | 407,417 | |
| うち赤字補てん的なもの | 287,234 | 288,487 | 303,224 | 341,938 | 325,966 | 373,111 | 495,976 | 425,443 | 425,026 | 407,417 | |

(3) 経営指標等

(単位:%)

| | | 平成14年度 (計画前5年度) (決算) | 平成15年度 (計画前4年度) (決算) | 平成16年度 (計画前3年度) (決算) | 平成17年度 (計画前々年度) (決算) | 平成18年度 (計画前年度) (決算見込) | 平成19年度 (計画初年度) | 平成20年度 (計画第2年度) | 平成21年度 (計画第3年度) | 平成22年度 (計画第4年度) | 平成23年度 (計画第5年度) | |
|-----------------------------|-----------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------|
| 資金不足比率 | (%) (再掲) | | | | | | | | | | | |
| 料金回収率 | (%) | 26.1 | 28.7 | 22.0 | 20.7 | 30.5 | 30.7 | 34.0 | 33.9 | 33.9 | 35.2 | |
| 総収支比率(法適用) | (%) | | | | | | | | | | | |
| 経常収支比率(法適用) | (%) | | | | | | | | | | | |
| 営業収支比率(法適用) | (%) | | | | | | | | | | | |
| 累積欠損金比率(法適用) | (%) (再掲) | | | | | | | | | | | |
| 収益的収支比率(法非適用) | (%) (再掲) | 54.4 | 54.0 | 52.5 | 52.7 | 49.6 | 49.1 | 45.1 | 40.6 | 38.4 | 37.9 | |
| 不良債務比率(法適用)又は 赤字比率(法非適用) | (%) (再掲) | | | | | | | | | | | |
| 繰入金比率 | 収益的収入分 | (%) | 60.4 | 59.3 | 61.4 | 63.3 | 53.2 | 54.5 | 43.0 | 36.6 | 32.9 | 29.9 |
| | うち基準内繰入金 | (%) | 35.1 | 41.8 | 5.9 | 5.2 | 37.1 | 31.4 | 33.3 | 31.5 | 30.4 | 29.6 |
| | うち基準外繰入金 | (%) | 25.3 | 17.5 | 55.6 | 58.1 | 16.1 | 23.2 | 9.7 | 5.1 | 2.5 | 0.3 |
| | うち料金収入に計上すべき繰入等 | (%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | うち赤字補てん的なもの | (%) | | | | | | | | | | |
| | 資本的収入分 | (%) | 27.8 | 46.6 | 54.0 | 60.1 | 54.2 | 48.5 | 53.9 | 70.7 | 73.7 | 81.2 |
| | うち基準内繰入金 | (%) | 5.0 | 9.1 | 8.8 | 7.4 | 6.5 | 4.1 | 3.0 | 3.9 | 3.7 | 3.4 |
| | うち基準外繰入金 | (%) | 22.7 | 37.5 | 44.9 | 52.6 | 47.7 | 44.4 | 50.9 | 66.8 | 70.0 | 77.8 |
| | うち赤字補てん的なもの | (%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100 | 100 | 100 | 100 |

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

(1) 資金不足比率(%)

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = 地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = 地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(2) 総収支比率(%) = 総収益 / 総費用 × 100

(3) 経常収支比率(%) = 経常収益 / 経常費用 × 100

(4) 営業収支比率(%) = (営業収益 - 受託工事収益) / (営業費用 - 受託工事費用) × 100

(5) 累積欠損金比率(%) = 累積欠損金 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(6) 収益的収支比率(%) = 総収益 / (総費用 + 地方債償還金) × 100

(7) 不良債務比率(又は赤字比率)(%) = 不良債務(又は実質赤字額) / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(8) 繰入金比率(%) = 収益的収入に属する他会計繰入金(又は資本的収入に属する他会計繰入金) / 収益的収入(又は資本的収入) × 100

2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業にあつては使用料回収率)について記載すること。

(1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法

・料金回収率(%) = 供給単価 / 給水原価 × 100

1 供給単価(円/m³) = 給水収益 / 年間総有収水量(工業用水道事業にあつては料金算定に係るもの)

2 給水原価(円/m³) = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金(水道事業のみ))) / 年間総有収水量(工業用水道事業にあつては料金算定に係るもの)
但し、簡易水道事業については下記によるものとする。

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金 + 減価償却費) + 企業債償還金) / 年間総有収水量

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = (総費用 - (受託工事費 + 基準内繰入金) + 地方債償還金) / 年間総有収水量

(2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法

・使用料回収率(%) = 使用料収入 / 汚水処理費 × 100

(4) 収支見通し策定の前提条件

| 条件項目 | 収支見通し策定に当たっての考え方(前提条件) |
|---------------------------|--|
| 1 料金設定の考え方、料金収入の見込み | 使用料単価が150円/m ³ を下回らないように料金設定を行うと共に、整備計画等に基づき有収水量を予測し、料金収入を予測した。 |
| 2 他会計繰入金の見込み | 決算で生じる不足額を一般会計繰入金で措置している。 |
| 3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み | |
| 4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの | |

注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定(前提条件)について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

(3) 経営指標等

(単位:%)

| | | 平成14年度 (計画前5年度) (決算) | 平成15年度 (計画前4年度) (決算) | 平成16年度 (計画前3年度) (決算) | 平成17年度 (計画前々年度) (決算) | 平成18年度 (計画前年度) (決算見込) | 平成19年度 (計画初年度) | 平成20年度 (計画第2年度) | 平成21年度 (計画第3年度) | 平成22年度 (計画第4年度) | 平成23年度 (計画第5年度) |
|-----------------------------|------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 資金不足比率 | (%) (再掲) | | | | | | | | | | |
| 料金回収率 | (%) | | | | | 30.5 | 30.7 | 33.8 | 33.8 | 33.7 | 35.0 |
| 総収支比率(法適用) | (%) | | | | | 100 | 100 | 100.3 | 100.9 | 100.9 | 101.0 |
| 経常収支比率(法適用) | (%) | | | | | 100 | 100 | 100.3 | 100.9 | 100.9 | 101.0 |
| 営業収支比率(法適用) | (%) | | | | | 138.6 | 113.5 | 58.9 | 59.1 | 59.5 | 59.7 |
| 累積欠損金比率(法適用) | (%) (再掲) | | | | | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 収益的収支比率(法非適用) | (%) (再掲) | | | | | | | | | | |
| 不良債務比率(法適用)又は 赤字比率(法非適用) | (%) (再掲) | | | | | | | | | | |
| 繰入金比率 | 収益的収入分 | (%) | | | | 53.2 | 54.5 | 64.8 | 62.7 | 61.4 | 60.4 |
| | うち基準内繰入金 | (%) | | | | 37.1 | 31.4 | 20.5 | 18.6 | 17.5 | 16.7 |
| | うち基準外繰入金 | (%) | | | | 16.1 | 23.2 | 44.3 | 44.1 | 43.9 | 43.7 |
| | うち料金収入に計上すべき繰入金等 | (%) | | | | 100 | 100.0 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | うち赤字補てん的なもの | (%) | | | | | | | | | |
| | 資本的収入分 | (%) | | | | 54.2 | 48.5 | 53.9 | 70.7 | 73.7 | 81.2 |
| | うち基準内繰入金 | (%) | | | | 6.5 | 4.1 | 3.0 | 3.9 | 3.7 | 3.4 |
| | うち基準外繰入金 | (%) | | | | 47.7 | 44.4 | 50.9 | 66.8 | 70.0 | 77.8 |
| | うち赤字補てん的なもの | (%) | | | | 100.0 | 100.0 | 100 | 100 | 100 | 100 |

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

(1) 資金不足比率(%)

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = 地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = 地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(2) 総収支比率(%) = 総収益 / 総費用 × 100

(3) 経常収支比率(%) = 経常収益 / 経常費用 × 100

(4) 営業収支比率(%) = (営業収益 - 受託工事収益) / (営業費用 - 受託工事費用) × 100

(5) 累積欠損金比率(%) = 累積欠損金 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(6) 収益的収支比率(%) = 総収益 / (総費用 + 地方債償還金) × 100

(7) 不良債務比率(又は赤字比率)(%) = 不良債務(又は実質赤字額) / (営業収益 - 受託工事収益) × 100

(8) 繰入金比率(%) = 収益的収入に属する他会計繰入金(又は資本的収入に属する他会計繰入金) / 収益的収入(又は資本的収入) × 100

2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業にあっては使用料回収率)について記載すること。

(1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法

・料金回収率(%) = 供給単価₁ / 給水原価₂ × 1001 供給単価(円/m³) = 給水収益 / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)2 給水原価(円/m³) = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金(水道事業のみ))) / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)

但し、簡易水道事業については下記によるものとする。

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金 + 減価償却費) + 企業債償還金) / 年間総有収水量

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = (総費用 - (受託工事費 + 基準内繰入金) + 地方債償還金) / 年間総有収水量

(2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法

・使用料回収率(%) = 使用料収入 / 汚水処理費 × 100

(4) 収支見通し策定の前提条件

| 条件項目 | 収支見通し策定に当たっての考え方（前提条件） |
|---------------------------|--|
| 1 料金設定の考え方、料金収入の見込み | 使用料単価が150円/m ³ を下回らないように料金設定を行うと共に、整備計画等に基づき有収水量を予測し、料金収入を予測した。 |
| 2 他会計繰入金の見込み | 決算で生じる不足額を一般会計繰入金で措置している。 |
| 3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み | |
| 4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの | |

注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定（前提条件）について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

経営健全化に関する施策

| 項 目 | 具 体 的 内 容 | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|---------------------------|--|------------------------------------|---|------------------------------|------|----------------|---|------------|----------------|--|
| 1 行革推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減 <table border="1" data-bbox="145 300 611 1093"> <tr> <td data-bbox="145 300 611 427">地方公務員の職員数の純減の状況</td> <td data-bbox="611 300 2139 427">美祢市行政改革実施計画(集中改革プラン)(平成18年2月23日策定)の中で、明確な数値目標を設定した「第3次定員適正化計画」を策定し、計画的な職員数の抑制に取り組んでおり、下水道においては、平成17年度の9名から平成22年度の目標を8名としており、平成19年度現在では、6名となり、大幅な減となっている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 427 611 531">給与のあり方</td> <td data-bbox="611 427 2139 531"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 531 611 675">国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方</td> <td data-bbox="611 531 2139 675">特殊勤務手当の適正化については、平成15年度に下水道業務手当(月額5,000円)を廃止し、年間60千円の削減となった。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 675 611 810">技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方</td> <td data-bbox="611 675 2139 810">該当なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 810 611 954">退職時特昇等退職手当のあり方</td> <td data-bbox="611 810 2139 954">退職手当については、退職時に一般会計の職員として一般会計で支出しており、公共下水道事業では支出していない。なお、一般会計では、平成18年4月1日退職時特昇を廃止した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 954 611 1093">福利厚生事業のあり方</td> <td data-bbox="611 954 2139 1093">事業主が1/2負担している。</td> </tr> </table> | 地方公務員の職員数の純減の状況 | 美祢市行政改革実施計画(集中改革プラン)(平成18年2月23日策定)の中で、明確な数値目標を設定した「第3次定員適正化計画」を策定し、計画的な職員数の抑制に取り組んでおり、下水道においては、平成17年度の9名から平成22年度の目標を8名としており、平成19年度現在では、6名となり、大幅な減となっている。 | 給与のあり方 | | 国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方 | 特殊勤務手当の適正化については、平成15年度に下水道業務手当(月額5,000円)を廃止し、年間60千円の削減となった。 | 技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方 | 該当なし | 退職時特昇等退職手当のあり方 | 退職手当については、退職時に一般会計の職員として一般会計で支出しており、公共下水道事業では支出していない。なお、一般会計では、平成18年4月1日退職時特昇を廃止した。 | 福利厚生事業のあり方 | 事業主が1/2負担している。 | |
| 地方公務員の職員数の純減の状況 | 美祢市行政改革実施計画(集中改革プラン)(平成18年2月23日策定)の中で、明確な数値目標を設定した「第3次定員適正化計画」を策定し、計画的な職員数の抑制に取り組んでおり、下水道においては、平成17年度の9名から平成22年度の目標を8名としており、平成19年度現在では、6名となり、大幅な減となっている。 | | | | | | | | | | | | |
| 給与のあり方 | | | | | | | | | | | | | |
| 国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方 | 特殊勤務手当の適正化については、平成15年度に下水道業務手当(月額5,000円)を廃止し、年間60千円の削減となった。 | | | | | | | | | | | | |
| 技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方 | 該当なし | | | | | | | | | | | | |
| 退職時特昇等退職手当のあり方 | 退職手当については、退職時に一般会計の職員として一般会計で支出しており、公共下水道事業では支出していない。なお、一般会計では、平成18年4月1日退職時特昇を廃止した。 | | | | | | | | | | | | |
| 福利厚生事業のあり方 | 事業主が1/2負担している。 | | | | | | | | | | | | |
| 2 物件費の削減、指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用等 <table border="1" data-bbox="145 1201 611 1476"> <tr> <td data-bbox="145 1201 611 1345">維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組</td> <td data-bbox="611 1201 2139 1345">財務状況の分析の課題 のサービス供給コストの節減合理化にあるハンディーターミナルの活用による口座振替納付済通知書を廃止し、平成18年度において、950千円(平成18年10月～平成19年3月)削減した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="145 1345 611 1476">指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用</td> <td data-bbox="611 1345 2139 1476"></td> </tr> </table> | 維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組 | 財務状況の分析の課題 のサービス供給コストの節減合理化にあるハンディーターミナルの活用による口座振替納付済通知書を廃止し、平成18年度において、950千円(平成18年10月～平成19年3月)削減した。 | 指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用 | | | | | | | | | | |
| 維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組 | 財務状況の分析の課題 のサービス供給コストの節減合理化にあるハンディーターミナルの活用による口座振替納付済通知書を廃止し、平成18年度において、950千円(平成18年10月～平成19年3月)削減した。 | | | | | | | | | | | | |
| 指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用 | | | | | | | | | | | | | |

経営健全化に関する施策（つづき）

| 項 目 | 具 体 的 内 容 |
|--|---|
| 3 コスト等に見合った適正な料金水準への引上げ、売却可能資産の処分等による歳入の確保 料金水準が著しく低い団体にとっては、コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げに向けた取組 | 平成17年度(平成18年4月1日から実施)に料金改定を行い、適正な料金水準(使用料単価150円/m ³ 以上)への引き上げを行った。 |
| 4 経営健全化や財務状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入 経営健全化や財務状況に関する情報公開 行政評価の導入 | 美祿市行政改革実施計画(集中改革プラン)の中に、上水道・下水道事業の経営健全化があり、ホームページに公開してある。 平成20年度に導入予定であり、内容については、調整中である。 |
| 5 その他 | 財務状況の分析の課題 の水洗化促進による料金収入の増収対策として、平成19年度に美祿市水洗化促進事務取扱要綱を策定し、供用開始後3年を経過した未水洗化世帯に対して、水洗化促進を促すように努める。 |

注1 上記区分に応じ、「財務状況の分析」の「経営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策が明らかとなるよう、に付した課題番号を引用しつつ、記入すること。

2 上記に記入した各種施策のうち、当該取組の効果として改善額の算出が可能な項目については、「繰上償還に伴う経営改革効果」の「年度別目標等」にその改善額を記入すること。なお、当該改善額が対前年度との比較により算出できない項目（資産売却収入・工事コスト縮減など）については、当該改善額の算出方法も併せて上記各欄に記入すること。

3 必要に応じて行を追加して記入すること。

繰上償還に伴う経営改革促進効果

1 主な課題と取組み及び目標

| 課題 | 取組み及び目標 |
|---------------------------|---|
| 1 職員数の純減や人件費の総額の削減 | 美祿市行政改革実施計画(集中改革プラン)(平成18年2月23日策定)の中で、明確な数値目標を設定した「第3次定員適正化計画」を策定し、計画的な職員数の抑制に取り組んでおり、下水道においては、平成17年度の9名から平成22年度の目標を8名としており、平成19年度現在では、6名となり、大幅な減となっている。今後は、人事の交流により、職員数ではなく、人件費の削減に努める。 |
| 2 経営効率化や料金適正化による繰越欠損金の解消等 | 財務状況の分析の課題 のサービス供給コストの節減合理化にあるハンディターミナルの活用による口座振替納付済通知書を廃止し、平成18年度において、950千円(平成18年10月～平成19年3月)削減した。今後は、口座振替の割合が約80%(平成18年度)を更に促進するため、使用者に対して自主納付から口座振替を進めることにより、更なる経営効率化及びコスト削減に努める。 |
| 3 一般会計等からの基準外繰出しの解消等 | 基準外繰出金は、起債元利償還金であり、補償金免除の繰上償還または、借換により、起債利息分の基準外繰出しの解消に努める。 |
| 4 その他 | 財務状況の分析の課題 の資本投下の抑制として、公共下水道施設の重要な施設である管渠の工事に於いて、土被りが深くないように工夫して工事費の節減を図ったり、マンホールについても、近年の管路の維持管理技術の発展に対応させ、設置間隔を長くするなどして工事費の軽減を図る。また、課題 の水酸化促進による料金収入の増収対策として、平成19年度に美祿市水酸化促進事務取扱要綱を作成し、供用開始後3年を経過した未水酸化世帯に対して、水酸化の促進に努める。 |

注1 上記各項目には、 で採り上げた経営課題に対応する取組として に掲げた経営健全化に関する施策のうち、それぞれ各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

2 年度別目標等 次頁以下(1)から(5)までの各事業別様式を参考に、以下の考え方に沿って策定すること。

(各事業共通留意事項)

| |
|--|
| <p>1. 次頁以下の各事業別様式は、「年度別目標」を策定するに当たって参考となるよう例示的な様式を示したものであり、2に掲げた項目以外は必ずしも全ての項目に記入を要するものではなく、各団体の各事業の状況にあわせて記入可能な項目のみ記入し又は独自の取組に応じた項目を立てて記入することは差し支えないものであること。</p> <p>2. 各事業別様式は参考例示ではあるが、各様式中の「目標又は実績」欄の項目のうち、職員数、行政管理経費(人件費、物件費、維持補修費等)に該当する項目並びに累積欠損金比率及び企業債現在高は、年度別目標策定に際して必須項目とされているので漏れがないよう留意すること。なお、これらの項目のうち、職員数、行政管理経費については、各団体(事業)の取組状況に応じて、適宜、細分化(例:職員数 職種別に区分、正職員と臨時職員とを分離計上等)することは差し支えないこと。</p> <p>3. 「目標又は実績」欄の項目中、「職員数」については、前年度との比較によりその増減数を各年度の「増減数」欄に計上するとともに、計画期間中の「増減数」の合計は「計画合計」欄に計上し、計画前5年間の「増減数」の合計は「計画前5年間実績」欄に計上すること。</p> <p>4. 「目標又は実績」欄の項目の見直し施策実施に係る「改善額」は、原則として、当該見直し施策実施年度の前年度との比較により算出し、その改善効果がその後も継続するものとして、その後の各年度の改善額を計上すること。</p> <p>5. 4による「改善額」が対前年度との比較により算出できない項目、その改善効果が単年度に限られる項目(資産売却益、工事コスト縮減等)については、当該改善額のみ当該見直し施策の実施年度の「改善額」欄に計上すること。またその場合の改善額の算出方法について、 の当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。</p> <p>6. 計画期間中に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画合計」欄に計上すること。また、計画前5年間に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画前5年間実績」欄に計上すること。</p> <p>7. 「改善額 合計」欄及び「計画前5年間改善額 合計」欄には、それぞれの期間に係る人件費(退職手当以外の職員給与費)その他改善額を計上することが可能なものの合計(「計画合計」及び「計画前5年間実績」それぞれの合計)を記入すること。その際、同一項目に係る内訳に相当するもの等を重複計上することのないよう留意すること。</p> <p>8. 「(参考) 補償金免除額」欄に記入する「補償金免除額」とは、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額(補償金免除(見込)額)であり、 の「5 繰上償還希望額等」に記入した「旧資金運用部資金」の「繰上償還希望額」に対応する「補償金免除額」の「合計」欄の額を転記すること。</p> <p>9. 以上の他、各事業別様式において、記入を求められている経営指標その他の項目等については各事業別様式の指示(留意事項)に従うこと。</p> <p>10. 必要に応じて行を追加して記入すること。</p> |
|--|

繰上償還に伴う経営改革促進効果(つづき)

2 年度別目標等

(5) 下水道事業

| 区分 | 目標又は実績 | 平成14年度 (計画前5年度 決算) | 平成15年度 (計画前4年度 決算) | 平成16年度 (計画前3年度 決算) | 平成17年度 (計画前々年度 決算) | 平成18年度 (計画前年度 決算見込) | 計画前5年間 実績 | 平成19年度 (計画初年度) | 平成20年度 (計画2年度) | 平成21年度 (計画3年度) | 平成22年度 (計画4年度) | 平成23年度 (計画5年度) | 計画合計 | |
|----------------------------------|------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|--------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|---------|--|
| 収入の確保 | 処理区域内人口(人) | 8,462 | 8,837 | 9,170 | 9,427 | 9,531 | | 9,600 | 9,700 | 9,800 | 9,900 | 10,000 | | |
| | A 増減 | | 375 | 333 | 257 | 104 | 1,069 | 69 | 100 | 100 | 100 | 100 | 469 | |
| | 水洗便所設置済人口(人) | 7,962 | 8,093 | 8,207 | 8,313 | 8,530 | | 8,611 | 8,720 | 8,820 | 8,930 | 9,040 | | |
| | B 増減 | | 131 | 114 | 106 | 217 | 568 | 81 | 109 | 100 | 110 | 110 | 510 | |
| | 水洗化率(%) | 94.1 | 91.6 | 89.5 | 88.2 | 89.5 | | 89.7 | 89.9 | 90.0 | 90.2 | 90.4 | | |
| | C 増減 | | -2.5 | -2.1 | -1.3 | 1.3 | -4.6 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | |
| | 有収水量(m ³) | 918,287 | 911,076 | 940,510 | 953,326 | 950,160 | | 960,000 | 970,000 | 980,000 | 990,000 | 1,000,000 | 49,840 | |
| | D 増減 | | -7,211 | 29,344 | 12,816 | -3,166 | 31,873 | 9,840 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | |
| | 使用料単価(円/m ³) | 126.1 | 127.6 | 127.1 | 125.9 | 154.3 | | 162.6 | 162.5 | 162.5 | 162.4 | 162.4 | | |
| | E 増減 | | 1.5 | -0.5 | -1.2 | 28.4 | 28.2 | 8.3 | -0.1 | 0.0 | -0.1 | 0.0 | 8.1 | |
| 料金改定率(%) | | | | | | | | | | | | | | |
| F 増減 | | | | | | | | | | | | | | |
| 収納率(%) | 95.0 | 96.0 | 96.1 | 95.5 | 95.9 | | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | | | |
| G 増減 | | 1.0 | 0.1 | -0.8 | 0.4 | 0.9 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | | |
| その他() | H 増減 | | | | | | | | | | | | | |
| 経営の効率化 | 職員1人当たりの営業収益(千円) | 12,241 | 13,650 | 15,766 | 15,829 | 19,154 | | 27,119 | 27,379 | 27,642 | 27,908 | 28,176 | | |
| | 増減 | | 1,409 | 2,116 | 83 | 3,325 | 6,913 | 7,965 | 260 | 263 | 266 | 268 | 9,022 | |
| | 職員数(人) | 10 | 9 | 8 | 8 | 7 | | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | | |
| | 増減 | | -1 | -1 | 0 | -1 | -3 | -1 | 0 | 0 | 0 | 0 | -1 | |
| | 管理運営費(千円) | 635,172 | 622,996 | 630,024 | 655,964 | 660,650 | | 729,522 | 639,018 | 645,139 | 650,361 | 635,896 | | |
| | I 増減 | | -12,176 | 7,028 | 25,940 | 4,686 | 25,478 | 68,872 | -90,504 | 6,121 | 5,222 | -14,465 | -24,754 | |
| | 処理区域内人口1人当たりの管理運営費(千円) | 75 | 70.4 | 68.7 | 69.5 | 69.3 | | 75.9 | 65.8 | 65.8 | 65.6 | 63.5 | | |
| | J 増減 | | -4.6 | -1.7 | 0.8 | -0.2 | -5.7 | 6.6 | -10.1 | 0 | -0.2 | -2.1 | -5.8 | |
| | 汚水処理原価(円/m ³) | 483.1 | 443.9 | 577.2 | 609.5 | 505.8 | | 599.1 | 532.7 | 551.5 | 559.3 | 548.4 | | |
| | K 増減 | | -39.2 | 133.3 | 32.3 | -103.7 | 22.7 | 93.3 | -66.4 | 18.8 | 7.8 | -10.9 | 42.6 | |
| 汚水処理原価(維持管理費)(円/m ³) | 99.4 | 99.0 | 95.3 | 119.7 | 100.5 | | 137.8 | 108.4 | 107.3 | 106.0 | 104.9 | | | |
| L 増減 | | -0.4 | -3.7 | 24.4 | -19.2 | 1.1 | 37.3 | -29.4 | -1.1 | -1.3 | -1.1 | 4.4 | | |
| その他() | M 増減 | | | | | | | | | | | | | |
| 収入の確保 | 使用料回収率(%) | 26.1 | 28.7 | 22.0 | 20.7 | 30.5 | | 27.1 | 30.5 | 29.5 | 29 | 29.6 | | |
| | (E/K×1,000) | | 2.6 | -6.7 | -1.3 | 9.8 | | -3.4 | 3.4 | -1 | -0.5 | 0.6 | | |
| | 累積欠損金比率(%) | | | | | | | | | | | | | |
| 企業債現在高(百万円) | 6,523 | 6,417 | 6,237 | 6,030 | 5,861 | | 5,749 | 5,624 | 5,354 | 5,069 | 4,724 | | | |
| 増減 | | -106 | -180 | -207 | 169 | | -112 | -125 | -270 | 285 | -345 | | | |
| 収入の確保 | 使用料収入 | 115,825 | 116,268 | 119,546 | 120,049 | 146,645 | | 156,130 | 157,691 | 159,268 | 160,861 | 162,470 | | |
| | 改善額(千円) | | | | | 26,596 | 26,596 | 36,081 | 37,642 | 39,219 | 40,812 | 42,421 | 196,175 | |
| | 有収水量の増加 | | | | | | | 9,485 | 11,046 | 12,623 | 14,216 | 15,825 | 63,195 | |
| | 使用料の適正化 | | | | | | 26,596 | 26,596 | 26,596 | 26,596 | 26,596 | 26,596 | 132,980 | |
| | 収納率の向上 | | | | | | | | | | | | | |
| その他() | | | | | | | | | | | | | | |
| 経営の効率化 | 管理運営費 | 635,172 | 622,996 | 630,024 | 655,964 | 660,650 | | 729,522 | 639,018 | 645,139 | 650,361 | 635,896 | | |
| | うち職員給与費中の退職手当を除いたもの | 64,649 | 59,700 | 57,624 | 56,794 | 47,813 | | 43,240 | 43,240 | 43,240 | 41,297 | 41,297 | | |
| | 改善額(千円) | | 4,949 | 7,025 | 7,855 | 16,836 | 36,665 | 21,409 | 21,409 | 21,409 | 23,352 | 23,352 | 110,931 | |
| | 職員給与費の適正化 | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持管理費(上記以外)の適正化 (職員数の適正化) | | 4,949 | 7,025 | 7,855 | 16,836 | 36,665 | 21,409 | 21,409 | 21,409 | 23,352 | 23,352 | 110,931 | |
| うち職員給与費中の退職手当 | | | | | | | | | | | | | | |
| その他(借換債による元利償還) | | | | | | | | | | | | | | |
| 改善額 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | | | | | | 計画前5年間改善額合計 | | | | | | 63,261 | |
| | | | | | | | | | | | | 改善額合計(千円) | 307,106 | |

計画前年度において使用料単価150円/m³(20m²当たり3,000円)未満(処理原価が150円/m³未満の場合は処理原価未満)の事業にあっては、下記に使用料適正化の考え方を記載し、当該適正化による増収額を記載すること。

「収入の確保、その他」の例:未利用地の売却、資産の有効利用(用地等の貸付)、再生水の販売収入など(記入単位は百万円とするが、会計規模により千円単位でも可とする。)

「経営の効率化、その他」の例:建設コストの縮減(上下水共同施工の実施、工法の見直し・技術開発の促進など、建設改良費の抑制は除く。)、電気、機械設備等の計画的修繕による長寿命化など(記入単位は百万円とするが、会計規模により千円単位でも可とする。)

(参考)補償金免除額(千円) 131,770

(収入の確保及び経営の効率化に向けた取組について)

使用料適正化の考え方 平成17年度に使用料の適正化を図るために、料金改定し、平成18年度4月から実施している。

民間委託の取組状況

その他に記載された項目に関する取組等

平成15年度から職員数の適正化を図り、人件費の削減に努めている。